



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

# 鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

## 鶴丸生になるということ

教頭 鶴田紋太郎

私は、生徒達が高校生最後の大会に向けて必死に取り組んでいる五月の放課後が大好きだ。体育館やグラウンドでは、新しいシューズを履いた一年生と二年生の部員達が所狭しと動き回っている。一年生は、わずかなスペースを利用して基本練習をしながら、二、三年生の姿を目で追っている。「自分たちも、二年後には先輩達のようなプレーがしたい。」という思いが伝わってくる。三年生は、その後ろ姿で先輩達に何かを伝えようとしている。言葉にしくとも、伝わってくる何かがある。私自身、平成七年から十四年まで鶴丸高校に勤務し、部活動の顧問も経験した。その頃と同じ部活動生の姿を目にし、鶴丸の伝統は確実に引き継がれていると実感した。

私は、六月の放課後の教室が大好きだ。昨日まで体育館やグラウンド等で大きな声を出して走り回っていた三年生が、最後の大会を終え、その翌日から大学入試に向けて気持ちを切り替えて学習に取り組んでいる教室は、不思議な雰囲気溢れている。「生徒達は入学すると同時に鶴丸の一員となるが、鶴丸高校での三年間を通して、真の鶴丸生になる。」と先輩教師に教えられたことを思い出す。生徒は三年間を通じて、そして大学入試という大きな試練に立ち向かう中で、最高の進化を遂げていく。

私は、忘れることのできない一人の鶴丸生がいる。彼女は学級の副委員長で、運動部に所属し、日頃はとても明るく活発な生徒で人前で弱音を吐くような生徒ではなかった。そんな彼女が、三年生の十一月頃、突然職員室にやってきて、目に涙を浮かべながら約二十分間その場にじっと立っていた。彼女とは、直前の教育相談で関東の難関大学を受験すると話したばかりであった。「何があったのか。」「彼女の涙は何を意味しているのか。」「その時点では、何の答えも返って

こなかった。翌年の夏休み、その答えが分かった。卒業後、彼女の母親が病気で亡くなったということ、そして彼女は当時、関東の難関大学を受験すべきか、地元の大学に残り母親の近くにいたか悩んでいたというのだ。卒業してから、彼女自身が友人に打ち明けたと聞いた。弱音を吐くことのない彼女は、自分の人生の選択について一人で悩み、一つの結論を出し前に進んだのであろう。おそらく、それは亡くなられた母親の希望でもあったのではないかと。

五月、六月と各中学校で行われる「高校説明会」で話す機会があるが、「鶴丸高校はどんな学校ですか。」ということについて説明する際、私は学校案内に掲載されている川野拓己君（平成二十八年四月入学）の言葉を引用するようにしている。

鶴丸は「才能」を競う場ではない。「努力」を競う場である。鶴丸では、どんなに高い目標を口にしてもけなされたり、馬鹿にされたりしない。なぜなら、同じように高い目標を持つ仲間、それを支えてくれる先生がいるからだ。そして、目標を叶える環境が整っているからだ。それが、鶴丸という学校である。

この鶴丸高校は、多くの人を惹きつける魅力溢れた学校である。その魅力は、鶴丸生一人一人に秘められた魅力でもあろう。無限の可能性をこの鶴丸高校で磨き上げ、これからの人生の中で、あなたにしかない輝きを放ってほしい。

## 新しい鶴丸をつくる

### 生徒会長選挙・生徒総会

五月九日、生徒会長選挙と生徒総会が行われました。生徒総会に先立って行われた立会演説会では候補者の大内山辰志君（二年）が、「強い所属感を持つ学校にしたい」と訴え、同日行われた選挙にて過半数の信任を得、平成二十八年前期生徒会長への就任が決定しました。

生徒総会では、恒例の第三号議案で「熊本地震について私たちができること」などを話し合いました。二、三年生の活発な意見が刺激されて、一年生からも積極的な意見が出されました。鶴丸高校の生徒総会に初めて参加した一年生からは、「先輩方の発言や言葉の伝え方、話し方のうまさにとっても驚いた」「鶴丸生は、生徒総会もすこかった」との声が聞こえました。

(上) 全校生徒の前で意見を述べる女子生徒。(下) 大内山君の演説の様子。



## 本の世界を語り合う

### LHR 集団読書

五月実力考査が終わり、今年度も恒例の集団読書が行われました。課題図書は、三年『日本文化私観』（坂口安吾・岩波文庫）、二年『さぶ』（山本周五郎・新潮文庫）、一年『夜のピクニック』（恩田陸・新潮文庫）です。

三年生の教室では、坂口安吾が述べる「伝統文化」の意味や実質を討論する姿が見られました。中にはディベート形式で激論を交わすクラスも。ある生徒は、「少し難しい本でした」と言いながらも、「伝統文化を維持するために何が必要か、なんて討論をする機会がほとんどない。難しいテーマについてクラスメイトと語ることができて思い出になりました」と語っていました。

## 12R 岡本 葵

私が高校に入学して、まだ一ヶ月ほどしか経っていない。だから、三年生の貴子たちにとって、高校生活最後の行事がどのような感じなのかというのは、簡単には想像ができない。だが、忍の「でもさ、もう一生のうちで、二度とこの場所に座って、このアングルからこの景色を眺めることはないんだ」という言葉から、二度と返ってはこないからこそ光る青春時代の大切さが伝わった。（中略）私も高校での三年間を終える頃には、このような感情になるのだろう。鶴丸の校歌「はろばろ」との歌詞に、「あわれわれ かへらざる三年をここに」というのがある。まさにこの夜のピクニックにも通じるものがあると思う。私にとっての「かへらざる三年」はもうとつとに始まっている。貴子たちのように、三年後、感傷的に物事が眺められるような、そんな三年を送っていききたいと思う。

## 一年課題図書『夜のピクニック』感想文

### 「これからの三年間(抄)」

私が高校に入学して、まだ一ヶ月ほどしか経っていない。だから、三年生の貴子たちにとって、高校生活最後の行事がどのような感じなのかというのは、簡単には想像ができない。だが、忍の「でもさ、もう一生のうちで、二度とこの場所に座って、このアングルからこの景色を眺めることはないんだ」という言葉から、二度と返ってはこないからこそ光る青春時代の大切さが伝わった。（中略）私も高校での三年間を終える頃には、このような感情になるのだろう。鶴丸の校歌「はろばろ」との歌詞に、「あわれわれ かへらざる三年をここに」というのがある。まさにこの夜のピクニックにも通じるものがあると思う。私にとっての「かへらざる三年」はもうとつとに始まっている。貴子たちのように、三年後、感傷的に物事が眺められるような、そんな三年を送っていききたいと思う。

## 天災に備えよ

### 避難訓練

右は、三年生LHR集団読書の様子。グループで討論し、クラス全体でも議論を交わします。後ろでは、一年生のH.R委員が議事進行の様子を見学しています。

五月二十日、地震を想定した避難訓練が実施されました。四月の熊本地震を受けて高まる防災の意識が、訓練を緊張感のあるものにしたようです。例年になく真剣なまなざしで話を聞く姿、敏速な行動。平常時に冷静に訓練することで、非常時の冷静な対応が可能になる、このことを忘れずに普段から災害時に備える姿勢を持つておきたいものです。



## 三年間の集大成を

### 県総体、始まる

五月十七日のラグビーを皮切りに、本校部活動生が鹿児島県高校総合体育大会に臨んでいます。三年生にとっては最後の県大会。これまで鍛えた技と精神を存分に発揮してほしいものです。また、文化系部活動にとっても最後の大会が行われる時期です。皆様、応援よろしくお願ひします。



三年間の思いをこの大会にぶつけます。(写真は、卓球部男子学校対抗戦の様子。)

